

清瀬市長 澁谷 桂司 様

災害時の女性、要配慮者等の支援の あり方に関する提言

清瀬市災害時の女性、要配慮者等の支援のあり方委員会

はじめに

昨今の自然災害の頻発や社会情勢の悪化により、国内及び海外における避難所生活の映像を、報道を通じて目にする機会が年々増加してきています。非日常的な生活の不便さや集団生活による様々な危険性を画面越しに垣間見ることで、今後自身が利用する可能性のある避難所での生活を不安視する市民の声が切実なものとして耳に届いています。特に、女性や災害時要配慮者※にとってみれば、その問題はより深刻で、早急に対応策を検討し、実行に移す必要があります。

そのような背景の中、安心・安全に過ごせる避難所運営の事前準備体制を整備するべく、『清瀬市災害時の女性、要配慮者等の支援のあり方委員会』を設置し、各分野の専門家を委員に招き、それぞれの立場における不安を解消するために議論を重ねてきました。

本提言では、避難所生活において女性や要配慮者等が直面する問題点を洗い出し、その対応として必要な備蓄品をリスト化するとともに、予防対策の構築について取りまとめました。

清瀬市における今後の避難所運営から市民の不安要素を少しでも減らすうえで、備蓄品を充足させる等の対策が大切と考えるため、本書をもって提言します。

※ 災害時要配慮者：自ら避難することが困難であり、特に支援を必要とする人。

具体的には、子ども、乳幼児、高齢者、障がいのある方、妊産婦、日本語に不慣れな外国人等。

令和7年2月18日

清瀬市災害時の女性、要配慮者等の支援のあり方委員会

委員長 二崎 博美

目 次

はじめに

..... |

1 清瀬市災害時の女性、要配慮者等の支援のあり方委員会 委員名簿

..... 3

2 アンケートの実施結果

..... 4

3 提言

女性、要配慮者等が避難所生活で直面する問題点と求められる対策

..... | 3

(参考) 委員会審議経過

..... | 8

I 清瀬市災害時の女性、要配慮者等の支援のあり方委員会 委員名簿

この提言書は、女性や要配慮者等への支援を検討するうえで、適任となり得る学識経験者やそれを業務主体としている各団体及び公募により、以下の7名を委嘱した委員会において検討し、作成しました。

委員長	二崎 博美	NPO法人 首都圏防災士連絡会
副委員長	富田 千秋	社会福祉法人 清瀬市社会福祉協議会
委員	池田 いづみ	NPO法人 子育てネットワーク・ピッコロ
	上木原 瞳	NPO法人 ウイズアイ
	熊谷 理恵子	社会福祉法人 椎の木会
	久世 清美	清瀬シニアクラブ連合会
	原田 聡子	公募

なお、本件の作成に当たり、以下の市職員が事務を担当しました。

課長	深田 恵一	総務部防災防犯課
主査	古川 誠	同上
主事	関 雄介	同上
	廣津 樹理	同上

2 アンケートの実施結果

女性や要配慮者等への支援を検討するうえで、広く意見を収集することを目的に、各委員の協力のもとアンケートによる実態調査を行いました。その実施結果は、以下のとおりです。

1 アンケート実施期間

令和6年8月15日（木）～9月20日（金）

2 アンケート内容

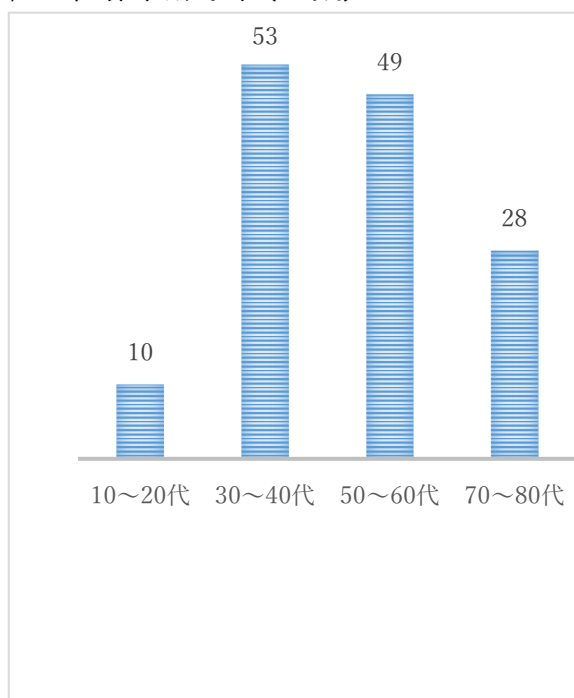
- (1) 女性、災害時要配慮者等が、避難所生活を過ごすうえでの問題点
- (2) (1)を解決するために必要な備蓄品

3 アンケート対象者等

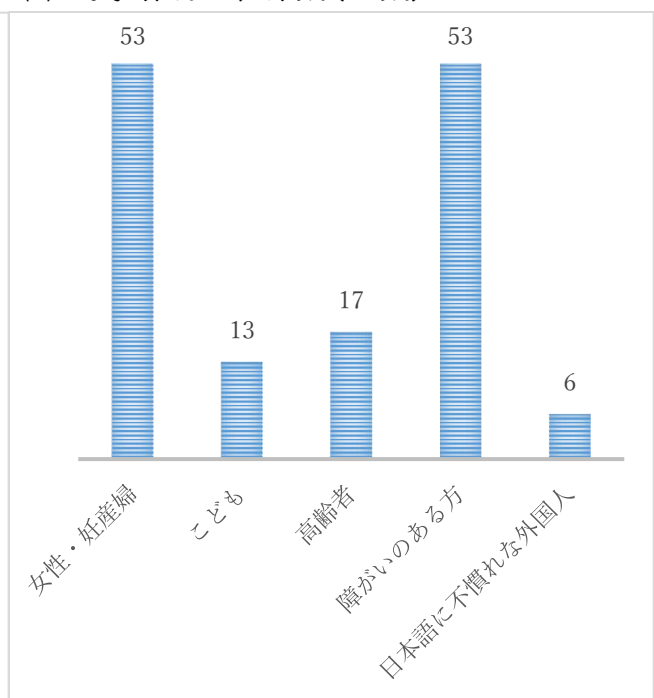
- (1) アンケート対象者

各委員所属団体関係者、避難所運営協議会会員等 計140名

- (2) 回答者年齢分布（人数）



- (3) 対象者別回答件数（人数）



4 対象者ごとのアンケート調査結果

Ⅰ 女性・妊産婦

▼避難所生活における問題点

▶女性が避難所で生活するうえでの問題点は、大きく4つに分けられます。

女性特有の身体や心の不調や、防犯面に対する不安を問題視する声が散見されました。

①身体的・心理的ストレス

- ・女性特有の健康面（生理、更年期など）での不調に対する不安がストレスを増長する。
- ・生理用品や清潔なトイレなど基本的な衛生環境がストレスに直結する。
- ・「いつも通りの生活が出来ない」、「人付き合いが難しい」、「知らない人と過ごすのが不安」など、避難所での非日常的な生活がストレスとなる。
- ・防犯面での性被害等や盗難が心配。

②プライバシーの確保が守られるスペース

- ・女性専用の個室（着替え等）、トイレ、シャワールームなどの不足。
- ・生理中など不調時にプライバシーが確保できるかも重要なポイント。

③衛生環境

- ・清潔なトイレ環境の確保や、用途別生理用品の十分な提供があるのか不安。
- ・適切な衛生管理が確保されるのか、不衛生がエスカレートしていかないか不安。

▶また、妊産婦が抱える問題点として、以下の声があがりました。

①乳児を連れての避難所生活

- ・泣き声が他人の迷惑にならないか等のストレス
- ・母乳が十分に出るか、オムツが足りるか

②授乳中

- ・鉄分や葉酸などの栄養素やカロリーの摂取量が確保できるか。

▼対策として求められる備蓄品

▶生理用品

No.	項目
1	生理用ナプキン（夜用、日中用など）
2	おりものシート
3	尿漏れパッド
4	授乳パッド

▶プライバシーと安全

No.	項目
1	専用テント
2	防犯ブザー
3	懐中電灯
4	耳栓、ヘッドホン
5	洗濯ロープ
6	個人用電源（スマートフォン充電器など）

▶スキンケアとパーソナルケア

No.	項目
1	使い捨て下着
2	液体歯磨き
3	洗顔料
4	スキンケアシート、汗拭きシート
5	便秘薬、頭痛薬
6	ドライシャンプー
7	保湿剤

▶妊産婦用

No.	項目
1	授乳用スペース（個室テント）
2	サプリメント

2 子ども（乳幼児を含む。）

▼避難所生活における問題点

▶子どもが抱える問題点として、精神的ストレスや集団生活における健康被害などに不安を感じる意見が多く見受けられました。

①プライバシーの確保

- ・多数の人と一緒に生活するため、視線が気にならない安心できるスペースや落ち着いて用を足せるトイレがない場合、心理的に安定しない恐れがある。

②ストレス

- ・環境の変化や不便な生活条件、プライバシーの欠如などからストレスが増大する。
- ・一人ひとりに対して十分な目が行き届かない可能性があり、適切なメンタルケアへの対策や性被害にあわないための対策に不安。
- ・長期化すれば、暇つぶしの手段も少なくなりストレスが溜まる可能性がある。
- ・温かい食事を取る機会が少なくなることがストレスに繋がる。

③衛生面の問題

- ・避難所は多くの方で混雑し、感染症の拡大が懸念される。
- ・手洗い場やトイレやシャワー施設が不十分であることもあり、清潔な生活を維持することが難しいのでは。

④教育の遅れ

- ・避難生活の長期化により、学習面の遅れが懸念される。

▶また、乳幼児の問題点は以下の通りです。

○物資不足

- ・サイズや用途に合った紙おむつが必要数用意されているのか不安。
- ・乳児や幼児にとって必要な離乳食やミルクなどが十分に提供されないのでは。
- ・衛生的な哺乳瓶が確保できるのか。

▼対策として求められる備蓄品

▶ベビーケアアイテム

No.	項目
1	紙おむつ
2	液体ミルク
3	使い捨て哺乳瓶
4	(哺乳瓶が洗えないときに使える)授乳用紙コップ
5	おしりふき
6	使い捨てガーゼ
7	乳児用段ボールベッド
8	補助便座

▶おもちゃ関係

No.	項目
1	おもちゃや遊び道具(月齢別に用意)
2	クッションシート(遊び場にも寝床にも騒音対策にも)
3	消毒用品

3 高齢者

▼避難所生活における問題点

▶高齢者が抱える問題点として、既往症(特に認知症)への影響や体調管理に直結する意見が多く見受けられました。

①病気や認知症への配慮の不足

- ・病気の人や認知症の人への配慮が不足し、その状態が悪化する恐れがある。(環境が変わることで悪化のリスクが高まる。)
- ・認知症の人は生活の変貌を自己認識できないため、情報取得や避難行動が難しくなる。
- ・常備薬の確保も重要。

②身体機能の低下による問題

- ・個々の体調に合わせた環境調整は難しいため、暑さや寒さの対策が必要。
- ・頻尿や耳が遠い、足腰の弱さなど、身体機能の低下により、共同生活が困難となるため体調管理が難しくなる。

③栄養管理の難しさ

- ・高齢者は飲み込みやすく、且つたんぱく質の多い食事が必要。

④コミュニケーションの難しさ

- ・独居や頼れる人がいない高齢者は、周囲となじめず、コミュニケーションが取りづらい場合がある。

▼対策として求められる備蓄品

▶介護用品

No.	項目
1	紙おむつ
2	尿漏れパッド
3	杖
4	歩行器
5	車いす

▶寝具と保暖・冷却設備

No.	項目
1	扇風機
2	懐炉
3	冷却シート

▶基本的な生活用品

No.	項目
1	ポータブルトイレ
2	入れ歯洗浄剤
3	液体歯磨き
4	歯間ブラシ
5	介護食（スープ、ゼリー状の物）
6	缶詰
7	いびき防止シール

4 障がいのある方

▼避難所生活における問題点

▶障がいのある方の問題点は以下の通りです。一概に障がいと言っても、視覚、聴覚など身体的なものはひとくくりにはせず個別の対応や配慮が重要だと考えられます。また、精神的障がいは、環境変化への対応が懸念されるようです。

①精神的ストレス

- ・避難者が多く集まる避難所では、障がいに対しての理解不足や偏見による対応にストレスを感じやすい。
- ・大きな音や動きの制限などにより、発散できないことによるストレスが懸念される。

②施設のバリアフリー化の不備

- ・車椅子や歩行器を必要とする方々にとっては、避難所の施設が十分にバリアフリー化されていないと避難所生活が困難となる。

③情報収集の困難性

- ・視覚や聴覚に障害を持つ方は、避難所の概要（配置、共用部分、パーソナルスペース、全体の動向等）を捉えることが難しい。

④日常的に使用する消耗品や医療品・医薬品の確保

- ・おむつなど日用品や特定の医薬品、医療的なケアの対策が定期的に必要となる。

▼対策として求められる備蓄品

▶生活支援設備と備品

No.	項目
1	紙おむつ
2	後付け用スロープ
3	補助用手すり
4	杖、ステッキ

▶コミュニケーション支援ツール

No.	項目
1	視線や騒音をカットできるテント
2	筆談具ボード
3	点字用紙と点字器

▶特別な配慮が必要なもの

No.	項目
1	医薬品（頭痛薬，精神薬，睡眠薬，胃薬）
2	防災スカーフ（障がいを知らせるため）
3	ビブ（よだれかけ）
4	音楽プレイヤー（リラクゼーションと焦燥の緩和）

5 日本語に不慣れな外国人

▼避難所生活における問題点

- ▶日本語に不慣れな外国人が直面する問題として、言葉が通じないことで避難所生活や有事の際の対応に、不安や焦燥を感じるようです。

①コミュニケーションの問題

- ・避難所には通訳を支援するシステムや多言語に対応している人の不足。
- ・情報を自ら発信したり取得したりすることが難しい。
- ・スタッフや他の避難者との必要なコミュニケーションを取りにくい、孤立化しやすい。

②情報理解の課題

- ・避難所内で必要な記入用紙(管理票など)や案内表示の日本語の理解が難しく、重要な情報の取得が難しい。
- ・スタッフからの会話や伝達事項が理解しにくい。
- ・日本特有のルールを理解できない。

③飲食物についての問題

- ・日本語が得意でないため食品のラベル等を理解するのが難しい。
- ・信仰上食べられないものやアレルギーがある

▼対策として求められる備蓄品

▶日本語に不慣れな外国人が必要なもののリスト

No.	項目
1	特定の宗教に配慮した保存食
2	自動多言語翻訳機
3	多言語変換アプリがインストールされたタブレット
4	やさしい日本語化された避難所マニュアル

3 提言

清瀬市は、女性、要配慮者等が避難所生活で直面する問題点を解決するために、以下の5点について、備蓄若しくは災害時に調達できるよう、又は予防対策として事前に対応策を構築する等検討するべきであると提言します。

提言Ⅰ プライベートスペースの確保

多くの不安を抱える避難所生活において常に視線にさらされることは、行動が制限され、精神的な不調を増長させます。ストレスの緩和やトラブルの防止等のために、他からの視線を遮断することができるプライベートスペースの確保を確立するべきと提言します。

目的

- ・女性の着替え
- ・乳児への授乳
- ・おむつの交換
- ・自閉症、適応障害等集団生活が苦手な方のメンタルケア
- ・傷病者等の隔離
- ・プライベートな健康相談の場として

対策として必要となる備蓄品（又は調達品）（案）

- ・ワンタッチテント【画像Ⅰ 参考】
- ・パーテーション（簡易間仕切壁）【画像Ⅱ 参考】

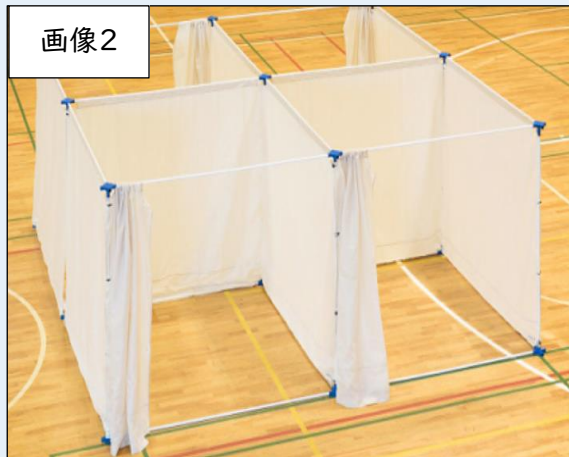
画像Ⅰ



※引用：株式会社ニード HP

<https://www.need-co.jp/> 3 -

画像Ⅱ



※引用：株式会社イースタイ HP

<http://www.easti.co.jp/>

提言2 生理現象への不安を最小限に留める

非日常的な生活においても、生理現象、つまり生命を営むために起こる体の働きは止めることができません。トイレに行くことが困難な要配慮者等、また女性の月経への不安やストレスを最小限に留めるため、それぞれの立場や状況に適した生理用品の備蓄を進めるべきと提言します。



対象

- ・女性の月経（1500名）
- ・乳・幼児の排泄（195名）
- ・高齢者で自らトイレに行けない方の排泄（195名）
- ・障がいのある方で自らトイレに行けない方の排泄（統計データなし）

※（ ）内は清瀬市における想定避難者数から予想される必要人数

対策として必要となる備蓄品（又は調達品）（案）

- ・乳幼児用おむつ（月齢、体系別）
- ・大人用おむつ（テープタイプ、パンツタイプ、体系別）
- ・生理用品

〔	昼・夜用、敏感肌用
	ウエットティッシュ、使い捨てショーツ、黒いビニール袋
〕	

※おむつやナプキンは、長期保存用（10年）の製品が備蓄品として望ましい。

提言3 後付けできる資器材によるバリアフリー化の推進

指定避難所とされる学校（体育館）や市民センター等は、内閣府の指針に基づきバリアフリー化に向けた整備が進められていますが、避難所の行動範囲すべてにおいて整備することは現実的ではありません。日常生活とは違う居住空間や仮設トイレ等、どのような立場の人でも不自由なく利用できる配慮が必要なため、それに対応した資器材の配置を提言します。

対象

- ・車椅子利用者
- ・脚の不自由な方
- ・ベビーカー利用者

対策として必要となる備蓄品（又は調達品）（案）

- ・移動式スロープ【画像3 参考】
- ・移動式手すり【画像4 参考】



※引用：アビリティーズ・ケアネット株式会社 HP
<https://my.abilities.jp/>

提言4 心のケアサポート体制の確立

想像を大きく超える被災体験や、避難所生活が長期化する中で重くのしかかってくる様々な精神的不安や身体的不調などによるストレス、また性別による差別化などによっては、心の傷（トラウマ）となり得ることが考えられます。重篤な場合、災害関連死などに繋がることも想定されます。避難所生活を強いられたとしても、安心して相談できる専門性のあるサポート体制の構築について、提言します。



対象

- ・全市民

対策として必要となる備蓄品（又は調達品）（案）

- ・ワンタッチテント【提言Ⅰと同じ】
- ・パーティション（簡易間仕切壁）【提言Ⅰと同じ】

その他の対策

- ・被災者のケアレベルに応じたサポート体制の構築をする。

- ▶一般被災者：地域コミュニティ（社会福祉士、精神保健福祉士、民生委員）
- ▶要 見 守 り：保健師、臨床心理士、精神保健福祉士
- ▶精 神 疾 患：精神科医

※『災害・紛争等緊急時における精神保健・心理的社会的支援に関する
IASC ガイドライン』より抜粋

- ・東京都災害派遣精神医療チーム（東京 DPAT）や東京都災害派遣福祉チーム（東京 DWAT）等都の派遣組織との受援に関わる連携を推進する。
- ・民間支援団体と災害時の支援に関する協定を締結する。
- ・子どもや妊産婦、LGBTQ の方に対しては、地域コミュニティの中でケア（安心感を与える）できるよう、それぞれが抱えやすい特有の悩みを市民に知ってもらうための取組みを推進し、平時から地域内で相談しやすい関係性を醸成していく。そのまた女性リーダーを養成し各避難所に配置することで、より相談しやすい環境づくりを推進する。

提言5 在宅避難の推進

避難所生活を強いられる際に身の回りの物すべてを行政側が用意してくれるものと認識している方が多いと考えられます。アンケート結果の中では、単価が安く、必要個数もそれほどでないものの要望も多く見受けられました。しかし、保管・管理の側面から見ると、それらの多くは備蓄にそぐわないものが多くを占めます。

女性や要配慮者等が直面する問題点の解決策の一つとして、在宅避難が挙げられます。上記提言で示した対策と並行して、在宅避難を積極的に推進していくべきと提言します。



対象

- ・全市民

在宅避難の利点

- ・日常に近い環境で生活できる
- ・プライバシーが守られ、ストレスが軽減される
- ・自分の好みの防災食が食べられる
- ・ペットと一緒にいられる
- ・感染症のリスクを減らすことができる

対策

- ・市報や各種広報誌、ホームページ等を活用し、在宅避難の推進を広報し、その準備として、備蓄品の保管や家具転倒防止等安全対策についての必要性について伝達する。
- ・市の備蓄状況（主に食料、日用品等）について、情報公開をする。
- ・平時から地域コミュニティにおける『顔の見える関係性』の構築を推進し、避難所へ行かなくても協力し合える体制を整える。

(参考) 委員会審議経過

(1) 第1回委員会

ア 日時

令和6年8月1日(木) 18:00~19:30

イ 会場

清瀬市役所 2階市民協働ルーム

ウ 内容

- ・委員紹介
- ・副委員長選任
- ・避難所生活で直面する、女性、要配慮者等が抱える問題点についての意見交換
- ・今後の作業方針、スケジュールの確認

(2) 第2回委員会

ア 日時

令和6年11月26日(火) 15:00~16:30

イ 会場

清瀬けやきホール 第4会議室

ウ 内容

- ・アンケート調査の結果報告
- ・アンケート結果を踏まえた問題点及び必要な備蓄品のまとめ

(3) 第3回委員会

ア 日時

令和7年2月18日(火) 15:00~16:30

イ 会場

清瀬けやきホール 第1会議室

ウ 内容

- ・提言書素案の確認